

予算及び事業の経営方針

令和4年度予算の概要

1 業務の予定量

区 分	水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
給水戸数, 給水事業件数及び排水戸数	12,944 戸	6 事業所	12,202 戸
年間総給排水量	3,180,121 m ³	8,960,000 m ³	7,500,000 m ³
一日平均給水量	8,713 m ³	24,548 m ³	—
主要な建設改良費	原水浄水設備改良費 206,475 千円	原水送水設備改良費 10,330 千円	国庫交付金事業 1,112,780 千円
	配水設備改良費 184,859 千円	配水設備改良費 44,000 千円	単独整備事業 159,200 千円
	営業設備費 9,104 千円		

2 収益的収入及び支出

(単位: 千円)

区 分		水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
収 入	事業収益 (A)	568,851 千円	550,941 千円	1,063,570 千円
	営業収益	465,553 千円	513,691 千円	743,055 千円
	営業外収益	103,296 千円	37,008 千円	320,514 千円
	特別利益	2 千円	242 千円	1 千円
支 出	事業費 (B)	557,026 千円	441,665 千円	937,720 千円
	営業費用	541,449 千円	379,212 千円	902,509 千円
	営業外費用	12,576 千円	60,452 千円	32,209 千円
	特別損失	2,001 千円	1,001 千円	2,002 千円
	予備費	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円
差引額 (A) - (B)		11,825 千円	109,276 千円	125,850 千円

3 資本的收入及び支出

(単位：千円)

区 分		水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
収 入	資本的收入 (A)	241,172 千円	64,701 千円	1,275,729 千円
	企 業 債	163,000 千円	64,700 千円	450,800 千円
	負 担 金	44,400 千円		127,736 千円
	補 助 金	7,371 千円		397,027 千円
	水洗化貸付金回収金			165 千円
	固定資産売却代金	1 千円	1 千円	1 千円
支 出	資本の支出 (B)	750,318 千円	414,656 千円	1,491,086 千円
	建設改良費	400,438 千円	54,330 千円	1,298,797 千円
	企業債償還金	48,880 千円	330,926 千円	189,452 千円
	長期借入金償還金		26,400 千円	
	負 担 金		2,000 千円	
	他会計貸付金	300,000 千円		
	庁舎建設負担金			1,237 千円
	水洗化貸付金			600 千円
	予 備 費	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円
差引額 (A) - (B)		△509,146 千円	△349,955 千円	△215,357 千円

区 分	水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
補てん額	509,146 千円	349,955 千円	215,357 千円
当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額	33,910 千円	5,121 千円	84,604 千円
過年度分損益勘定留保資金	411,098 千円	146,539 千円	130,753 千円
当年度分損益勘定留保資金	64,138 千円	198,295 千円	

令和4年度事業の経営方針

水道事業につきましては、給水人口の減少等による使用水量の減少に伴って、料金収入が減少傾向にあります。一方で、今後老朽化施設の更新、耐震化を図っていく必要があることから厳しい経営状況にあるといえます。

いつでも安全で良質な水の安定供給の実現に向けて、いっそうの経費の節減等に努めるとともに、将来的に安定した経営を継続していくために大竹市水道事業経営戦略に基づき水道料金の改定について検討します。

工業用水道事業につきましては、企業債償還利息や減価償却費が経営を大きく圧迫していることから、企業債償還の平準化を図るなど経営努力を続けていますが、厳しい経営環境にあります。

引き続き、安定した工業用水の供給を行っていくためにも経費節減を図り経営の健全化に努めるとともに、本市の産業の活性化に寄与するよう取り組んでまいります。

公共下水道事業につきましては、昭和35年より整備に着手し、昭和45年に供用が開始され、事業認可区域内における整備はほぼ完了しています。

そのため、施設の老朽化が進み、改築更新費が増大している一方で、下水道使用料が年々減少傾向にあるなど、非常に厳しい経営状況におかれています。

今後も、安心して快適な生活を営むための良好な生活環境の維持と公共用水域の水質保全を実現するために、いっそうの経費の節減等に取り組むとともに、大竹市公共下水道事業経営戦略に基づき下水道使用料の改定について検討します。